

令和5年度 学校評価 報告書

香川県立高松桜井高等学校

1 学校評価関係行事（別紙1）

予定どおり計画を実施できた。

2 自己評価（別紙2）

（1）目標の設定

4～5月に、昨年度学校評価の分析に基づいて、各分掌・学年団で今年度の主な活動目標、具体的方策を検討した。それらを一覧表にまとめ、第1回学校評議員会に提示した。

（2）中間評価

9月末時点での目標達成状況等について、各分掌・学年団で中間評価を行い、後半の取組を検討した。

（3）年度末評価

1月末時点で、各分掌・学年団における今年度末の目標達成状況を評価し、一覧表にまとめ、第2回学校評議員会・学校関係者評価委員会に資料として提示した。

（4）自己評価の結果と今後の課題・改善策等

- ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行になり、各分掌・学年団ともにコロナ禍で中止や縮小を余儀なくされた事柄に対して、単に元に戻すのではなく、学校や生徒たちにとって **better**、**best** なことは何かという視点に立って日々の業務に当たった結果、24項目中、A評価が昨年度は5つだったのが、今年度は9つと大幅に増えた。まだまだ改善できるところはあり、全体評価はBとした。
- ・教務部では、タブレット端末を利用した遅刻欠席連絡や、自動採点ソフトの導入による観点別評価実施の負担感の軽減などに取り組んだが、引き続き現職教育などを通じて利用促進を図ってもらいたい。教育研究部の「学探（本校の総合的な探究の時間）」における、進路や実態に即した講座の設定や、ICT機器を使つての発表は、さらに次年度広がりを持たせてほしい。また人権・同和教育部ではLGBTの問題について、当該生徒本人に講話をさせると言う、かなり積極的な取り組みを行ったが、生徒も教員も、しっかりとした意識を持ち、取組としては非常に意義のあるものであった。
- ・コロナ禍の中でできることも増えてきて、担当の先生方の評価に対する基準が結構厳しくなり、A評価を付けても構わないがB評価というものもある。概してどの分掌、学年とも、粘り強く、生徒を巻き込んで取り組んでいる。
- ・本校喫緊の課題の明確化と共有化を図り、来年度の目標設定に活かしたい。

3 アンケートによる評価

（1）実施時期 令和5年12月

（2）対象 全校生徒、保護者、教員

（3）結果 （別紙3-1・2）、（別紙4-1・2）

（4）アンケート結果と今後の課題・改善策等

生徒アンケートでは、例年どの学年も満足度との相関関係が強い傾向にあるのは「学校行事」であるが、毎年3年生は項目の中で一番高くなる。受験勉強の中で、学校行事に対する期待が大きいせいだと思われる。現2年生は昨年度、学校行事と満足度の相関関係がさほど強くなく、理

由の解明と次年度に向けての行事の見直し等の必要性があると思われたが、学年が上がり自分たちが学校行事の中心であるという意識の高まりとともに、相関関係の従来の高さに落ち着いた。アンケートの時期がインフルエンザの流行と重なったためか、どの学年も「健康安全」との相関関係が高かった。

保護者アンケートでは、昨年同様、すべての学年で「部活動を通しての人的成長」や「学校行事を通じて生徒に自主性」「環境美化」の評価が相対的に高く、上位となっている。しかしながら、総合的な満足度との相関では、3学年とも「部活動」はむしろ低いほうで、「進路指導」「教育相談」の項目が上位にあがってきており、そうした部分に対する保護者の関心や学校に対する期待が高くなっていると思われる。また、「広報」が2年生で高くなっているのは、修学旅行や、文化祭、部活動など、学校教育の中で2年生が中心となって活躍しており、保護者の期待が見て取れる。今後とも学校からの発信は積極的に行わなければならないと思う。

4 授業評価

- (1) 実施時期 令和5年7月
- (2) 結果 (別紙5-1・2)
- (3) 結果と今後の課題・改善策等

どの教科も「できる(わかる)ことが増えた。」「主体的に学ぶことができた。」において5又は4の評価をした割合がおおむね8割を超えており、授業への取組み姿勢が良く、授業のねらいが達成されていると思われる。しかし、相変わらず、生徒が考える「主体的」と、教員が考える「主体的」には考え方に若干のずれがある。指導要領の言うところの「主体的な」学びができるよう、さらに授業研究に努め、「予習—授業—復習—自習」のできる生徒を育てたい。

I C T活用に関しては、全員がタブレット端末を持つようになり、更なる利用が望まれる。と同時に、ルールやマナー、管理上の問題も出てきており、多方面からの研究の継続が必要である。生徒はI C Tを利用する授業に対しては高評価である。更にハード面、ソフト面の考察を続け、授業評価・改善につなげていきたい。

5 学校関係者評価

学校関係者評価委員会を開催し、意見をいただいた。

- (1) 委員 学校評議員(4) P T A副会長(2)
校長、教頭(2)、事務部長、教務主任、教育研究部長 計12名
- (2) 実施期日 令和6年2月13日(火) 15:00~16:15
- (3) 評価の内容 (別紙6)

6 学校評価の公表

- ・「学校評価アンケート」の結果をP T A評議員会・総会において説明した。
- ・学校評価及びその資料を学校ホームページに掲載した。

7 来年度の取り組み

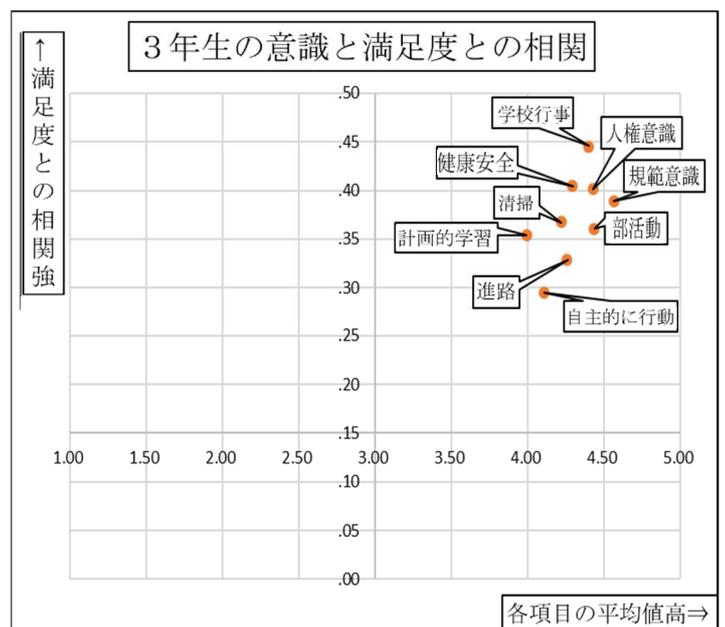
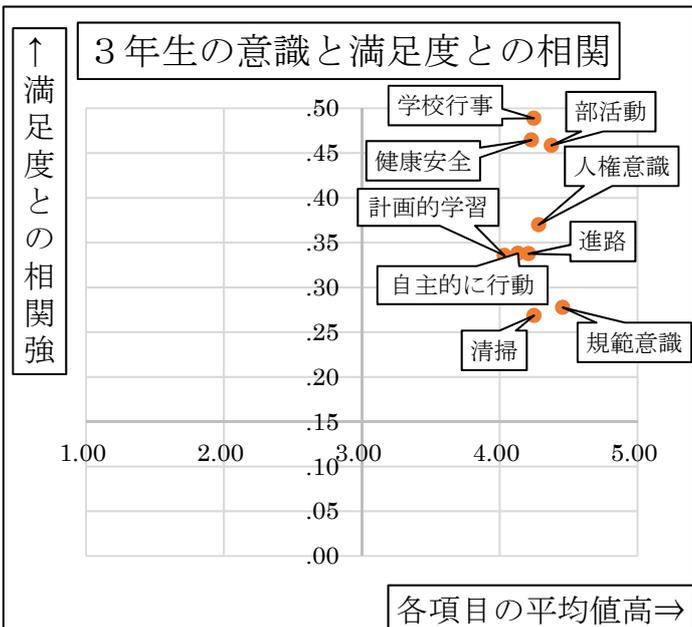
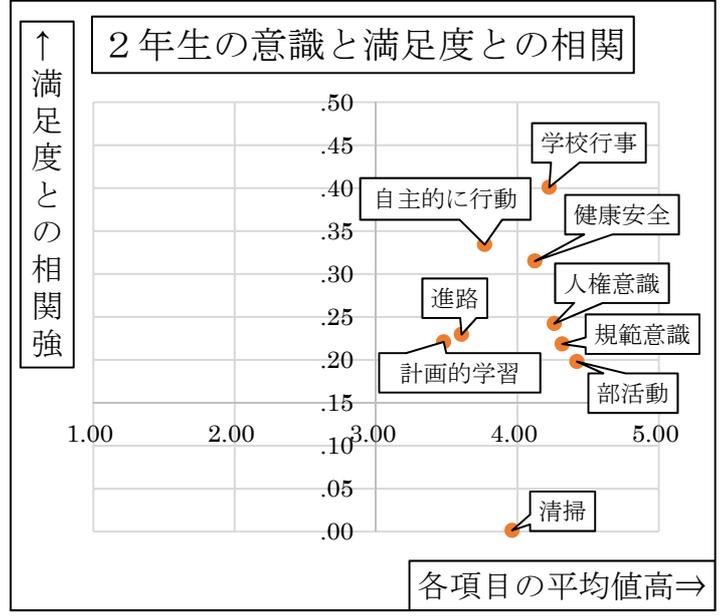
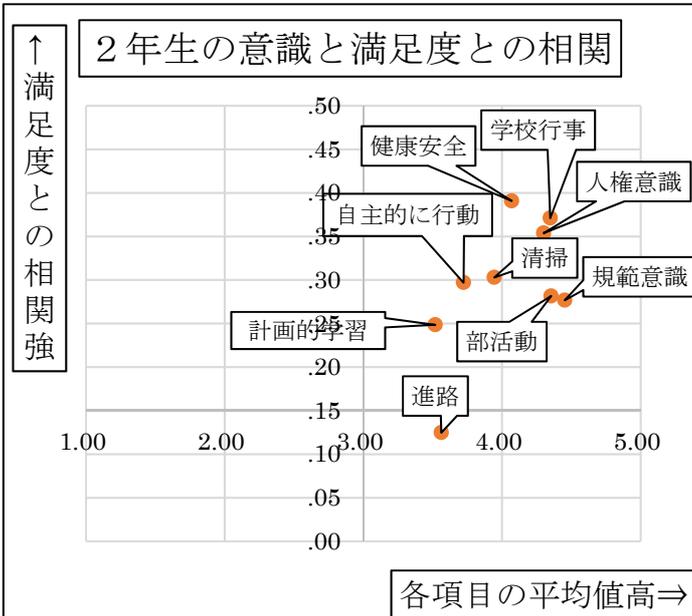
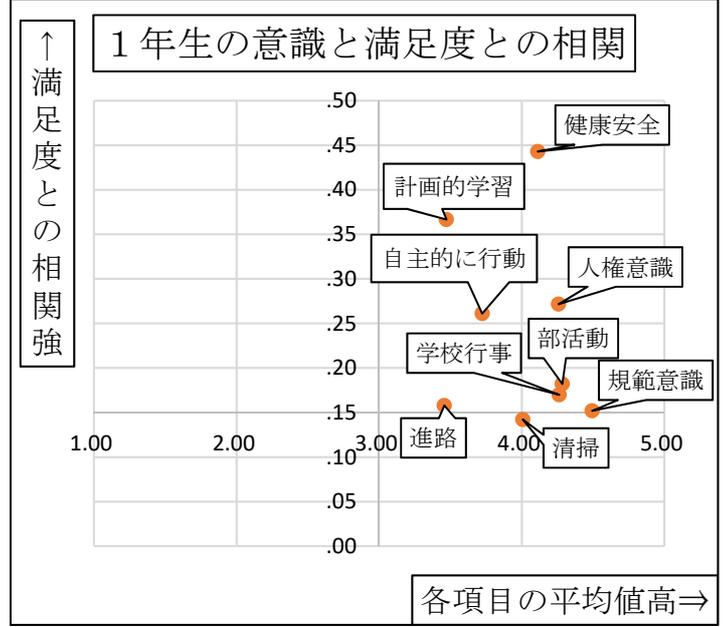
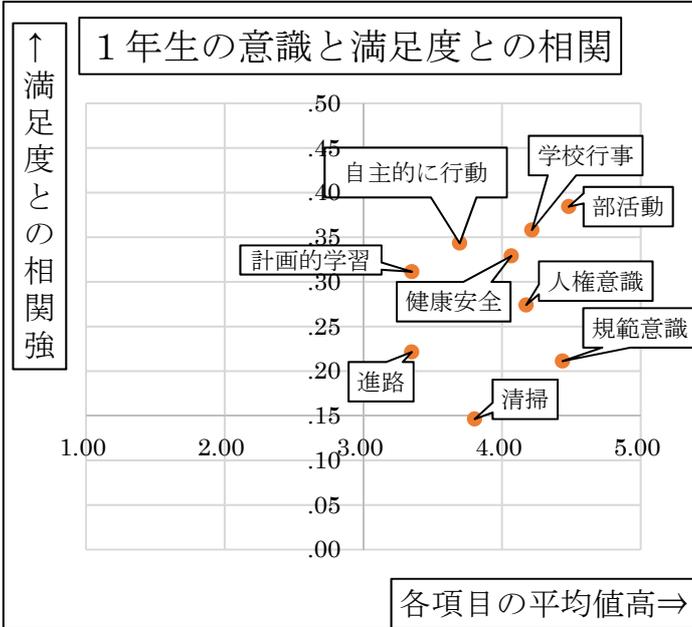
- ・今年度と同様に、学校の重点目標に基づいて分掌、学年団による目標を設定し、中間(～9月)、年度末(～1月)に自己評価を行う。
- ・アンケート項目の見直しを行った上で、生徒・保護者・教員を対象に学校評価アンケートを行う。
- ・上記の資料をもとに、年度末に学校関係者評価を行い、次年度の改善に活かす。
- ・学校評価関係行事、分掌等の目標、学校評価結果等をホームページに掲載し、情報公開に努める。

令和 5 年度 学校評価関係行事報告

月	アンケートによる評価 (生徒・保護者・教員)	自己評価 (分掌・学年団)	学校関係者評価	その他
4				
5		各分掌・学年団 重点目標等の策定		
6		(PC 上で全職員に提示)		学校新聞① (号外)
7	授業評価アンケート (生徒)		7/11 第 1 回学校評議員会	7/28 学校説明会 (オープンスクール)
8	アンケート結果を 職員会議に提示			
9				
10		中間評価 (PC 上で全職員に提示)		10/3 学校説明会 (中学校教員対象) 学校新聞② (85 号) 公開授業週間 10/23～27
11				
12	学校評価アンケート (生徒・保護者・教員)			
1	アンケート結果を 職員会議に提示	年度末評価 全職員に提示		学校新聞③ (86 号)
2	評価結果の取りまとめ アンケートおよび自己評価結果の総括		2/13 第 2 回学校評議員会 学校関係者評価委員会	
3		課題, 次年度の取組等 検討		学校新聞④ (87 号) 評価結果の公表

令和5年度 分掌等自己評価(今年度の目標)		香川県立高松桜井高等学校					
スクール ミッション	「創生・自主・共生」の校訓のもと、個に応じた教育活動を通して、確かな学力と、他者を思いやる心、地域社会に貢献する志を持った、国内外で活躍できるグローバルな人材を育成します。						
教育方針	(1) 大学進学を見据えた教育課程の編成と、確かな学力の養成、探究的な学習活動の展開 (3) 国内外の地域や人との関わりを通じての、幅広い視野と豊かな社会性・人間性の涵養		(2) 生徒が主体的に学び、考え、行動する活動の重視と、多様な経験の積み重ねによる人間的成長の促進 (4) 個を生かし、個を伸ばし、個に応じる教育による、一人ひとりの志望を実現させる進路指導の充実				
前年度の成果と課題		本年度の重点目標		具体的目標		全体評価	
<ul style="list-style-type: none"> 採点支援ソフト等の利用で、観点別評価の負担軽減を図った。 一人1台タブレット端末利用に向けての更なる環境整備が必要。 教育相談において、ある程度、早期発見・情報共有・早期対応ができた。 挨拶、ヘルメット着用奨励。校則における「当たり前」と「合理的説明」 進学成績は安定しているが、生徒・保護者が納得できる進路指導を。 時間外勤務時間削減を意識した、更なる「働き方改革」の推進が必要。 		<ul style="list-style-type: none"> 全学年新学習指導要領に備えて、観点別評価について更に考察する。 タブレット端末のアプリの整備をし、実際の授業での利用を推奨する。 生徒指導・教育相談での生徒の問題に対し、教員間の連携を更に強める。 進路指導において、低学年からの学習指導の徹底と個人面談の充実。 創立30周年事業の具体的な方向性を定める。 生徒のみならず、教職員の「心と体」の健康推進。 		<ul style="list-style-type: none"> 新採点支援ソフトを利用し、観点別評価の教員の負担軽減を図る。 学習ツールとしてICTを活用し、生徒の適切で主体的な使用を促す。 生徒の問題に関して「報・連・相」の徹底と、ケース会の実施。 進路情報の発信とミスマッチのない進路選択を促す。過半数第一志望合格 創立30周年記念講演会の企画、記念誌の作成に取り掛かる。 学校行事の見直しや、分掌、部活動のあり方の見直しの継続。 		B	
分掌等		本年度の主な活動目標	主な具体的方策	評価		中間評価・年度末評価における成果・課題	
				中間	年度末		
1	教務	行事等の調整を行いながら、授業時間の確保に努める。	分掌と協議し、行事をコロナ禍前の形式に戻すかどうか検討する。曜日ごとの授業時間平均化。	B	A	コロナ前に戻す部分と、変更・廃止の精査ができた。学校目標に沿った行事運営を目指して改善継続。	
2		タブレット端末の有効活用。新学習指導要領での評価の見直し。	他校での実施状況等の情報収集。必要な研修は早期に実施し、教員のスキルアップを図る。	B	B	現職教育による採点ナビ利用者増。教員全体のスキルアップ。Classi導入。観点別評価の学校全体の方向性を。	
3	教育研究	卒業後の進路選択に繋がるような探究活動を実施する。	授業の大切さを理解させながら、生徒が視野を広げられるように、教員や外部講師による講演を実施する。	B	A	授業の大切さ、概ね理解させられた。外部講師から貴重なアドバイスを聞いた。	
4		「課題研究」のレベルアップを図る具体的な方法を更に模索する。	多くの論文に触れ、研究者の視点を意識させる。発表会ではICT機器等利用で、視覚に訴えるプレゼンを行わせる。	B	B	論文構成の指導、書籍・インターネットの多くの論文に触れる。今後は全員がICT機器を利用したプレゼンテーションを目指す。	
5	進路指導	知識や技能に基づく「思考・判断・表現」力を養成し、入試に備えた学習指導を徹底する。	特に1、2年生の基礎学力の定着。校外模試等を活用し苦手分野の克服と、教科を横断させた探究的学びの奨励。	B	B	希望者校外模試を自宅から学校実施に変更。1、2年生の校外模試の結果は過去5年間で最高。	
6		3年生に対して、志望校をしっかりと検討させ、第一志望校に合格できる実力を養成する。	個人面談を随時行い、適切な進路を実現できるよう指導の充実を図る。過半数の第一志望校合格。	B	B	進路指導部より3年生全員面接実施。総合型・学校推薦型選抜受験指導の強化により合格率60%に。	
7	生徒指導	当たり前のことを当たり前に行う。(身だしなみ・言葉使い・挨拶)	服装検査、服装整備週間の実施、遅刻指導、登校時の校門指導、挨拶運動などを行う。	B	B	遅刻が特定生徒中心に増加。服装整備よくできている。校門指導等で挨拶等の質の向上を目指す。	
8		自転車の乗車ルール、マナーに対する意識を更に高める。	日々の学校生活を通じた交通安全啓発。(交通安全教室、自転車運転免許制度講習会、交通安全LHR等)	B	B	自転車事故昨年より微増。登下校の交通マナー、駐輪マナー、ヘルメット着用推進これからも。	
9	特別活動	生徒が主体的に取り組める機会の提供と内容の充実を図る。	生徒が主体的に活動できる場を整備し、ボランティア活動の機会を提供する。	B	B	行事参加主体的に出来た90%。校外ボランティア参加者増。校内清掃活動、募金活動参加して良かった93%。	
10		ユネスコスクールとしての活動を充実させる。	ユネスコスクールに関する校内活動及び地域と連携した活動を充実させる。	B	B	募金活動、交流会、地元海外支援団体との連携は充実したが、一般生徒のレスポンスとしての取組の認知度は80%。	
11	人権・ 同和教育	生徒の人権感覚を高めるために、活動を工夫する。	LHRの事前学習を工夫する。人権委員によるプレゼンなどで全校生徒の意識向上を目指す。	A	A	LGBT理解のHRでの当事者生徒の講演は好評であった。3年生ではタブレットを用いて行う革新的なものがあった。	
12		教職員の人権意識を高める工夫をする。	現職教育等でLGBTや同和問題等、多くの人権課題、特に最新の人権課題について理解してもらう。	B	A	生徒によるLGBTの講演を実現するための現職教育実施。5年ぶりの現地研修の再開。	
13	教育相談	生徒の学校生活における問題の早期発見、早期対応に努める。	生活アンケート等を実施し、生徒の現状の早期把握。SCとの座談会や教育相談だよりの発行。	B	A	学年団、他分掌との情報共有は十分。進路変更した生徒、保護者とも話し合いを重ねたので納得して変更した。	
14		教育相談における組織的な対応・支援に努める。	情報を関係職員で共有し、状況の改善、回復、再発防止までの一貫した支援体制を構築する。	A	B	年度内の情報共有は密にできたが、年度をまたいで生徒情報の引継ぎが不十分などところがある。	
15	保健	健康診断の目的を理解させ、自主的な健康管理に努めさせる。	担任・部活動顧問と協力して健診後の治療を促すとともに、個別指導で治療率を向上させる。	B	B	健診後すぐに治療する生徒が増えたが、最終的に治療率は昨年並みの50%。	
16		救命救急に関する知識や技術を身に付け、必要に応じた対応ができるようにする。	応急手当講習会などで知識や技術を身に付ける。保健だよりで捻挫や熱中症などの身近な症状の対処法を周知する。	B	A	それぞれの時季で気を付けるべきことを「保健だより」で発信。日赤の講習会は継続したい。	
17	総務	P T A・同窓会活動の活性化を図り、教育活動への協力を求める。	再開される各種活動等への協力依頼。HPなどで同窓会の活動報告をし、積極的な情報発信を行う。	B	A	P T A関係のほぼ全ての活動が実施され、会員の感想も良好。30周年のロゴ作成実行委員会の立ち上げ。	
18		地震・火災等への防災体制を整えとともに校内美化に努める。	防災訓練において災害対処法を学ばせる。日々の掃除活動の活性化を図る。	B	B	防災訓練は円滑に実施。トイレ清掃に強い抵抗感を持つ生徒がいる。年1度の業者による清掃の検討が必要か。	
19	学年団	1年団	基本的生活習慣と集団生活の中での責任ある行動を身につけさせる。	教員間の連携を密にして、集合時間の厳守など、様々な場面で生活指導の徹底を図る。	B	B	生活態度概ね良好。自転車事故、携帯の校内使用が年度当初～1学期にかけて多かったが、学年団会等で注意喚起し減少。
20			各自が進路目標を持ち、実現に向けて取り組めるようにする。	関係分掌と連携し、学習習慣を身につけさせるとともに、進路の目標をたてさせる。	B	B	学探やLHRで、進学意欲を高め、高い進路意識の継続を図りたい。学習と部活動の両立が出来ている生徒多い。充実した学校生活。
21		2年団	桜井高の中核であることを意識させる。基本的生活習慣を徹底させ、責任ある行動を促す。	時間厳守、挨拶励行、授業を基本とした学習習慣の確立を徹底させる。	B	B	不注意での遅刻者が多かった。交通ルールやマナーの遵守を引き続き指導したい。
22			学校内外での充実した活動を通じて、十分な学力が身に付くように支援する。	教育相談と連携し配慮すべき生徒の対応を行う。教育研究・進路指導部と連携し、確かな学力を身につけさせる。	B	A	LHRや担任、教科担当との面接で進路希望に適した科目選択ができた。英検や希望して校外模試を受験する者が増えた。
23		3年団	最上級生(新成人)として、品格・社会性を持った人物を育てる。	社会に出ていく上で必要な知識・態度について、LHRや学年集会など様々な場面で指導する。	B	B	遅刻が非常に多く、一部の生徒は保護者召喚して教頭注意を行ったが効果はなかった。コロナ時の影響からか欠席が以前に比べて多い。
24			進路目標達成のため適切な学習指導・進路支援を行う。	心のケアを行いつつ学習状況、希望進路を把握し、将来を見据えた希望進路先の検討を生徒と共に継続的に行う。	A	A	進路指導部との密な連携で、多くの進路情報の提供、面接や小論文指導により、国公立大学推薦入試の合格率アップ。

※「中間評価」：9月末時点での達成状況 「年度末評価」：1月末時点での年度末最終達成見込み A＝「良く成果をあげた」 B＝「成果があがった」 C＝「あまり成果がなかった」



※各項目とも「5」が「おおいにあてはまる」、「1」が「全くあてはまらない」

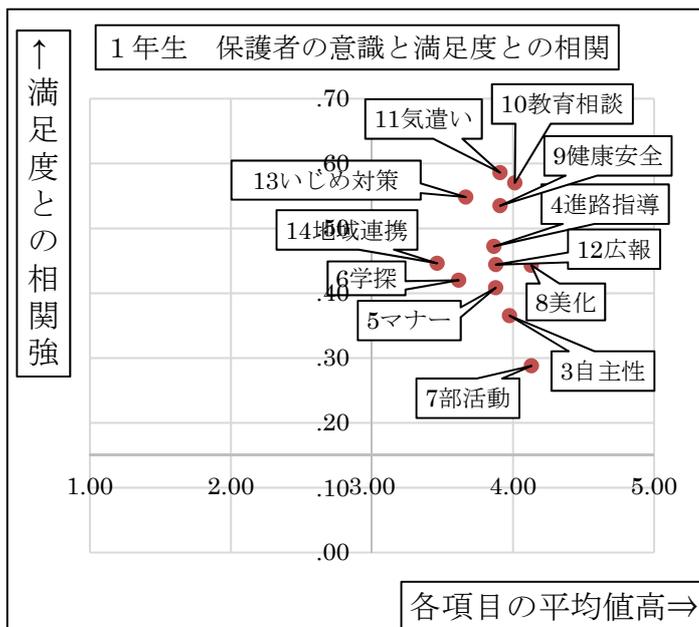
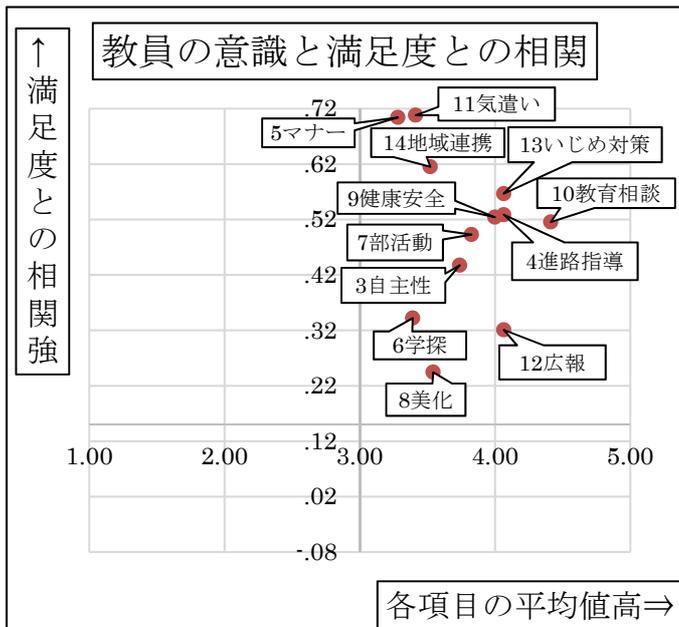
		1年全体			
設問項目		人数	平均	標準偏差	対13相関
13	総合的に判断して、本校での学校生活に満足している。	269	3.91	0.95	1.00
4	目的意識を持って自主的に行動することができている。	269	3.70	0.85	.34
5	自分の将来や進路を考え、その実現に向けて行動できている。	269	3.35	0.96	.22
6	校内を美しく保つよう、積極的に清掃に取り組んでいる。	269	3.80	0.89	.15
7	学習方法を工夫しながら計画的に学習に取り組んでいる。	268	3.35	1.00	.31
8	社会生活や交通のルール・マナーを守ることができている。	268	4.44	0.62	.21
9	人権を意識した、他者を気づかう言動が取れている。	269	4.17	0.75	.27
10	学校行事に積極的に取り組んでいる。	269	4.22	0.84	.36
11	部活動に積極的に取り組んでいる。(加入者のみ)	243	4.48	0.73	.38
12	自分の健康や安全に配慮した行動がとれている。	268	4.07	0.87	.33

		2年全体			
設問項目		人数	平均	標準偏差	対13相関
13	総合的に判断して、本校での学校生活に満足している。	274	3.93	0.85	1.00
4	目的意識を持って自主的に行動することができている。	274	3.72	0.83	.30
5	自分の将来や進路を考え、その実現に向けて行動できている。	274	3.56	0.90	.12
6	校内を美しく保つよう、積極的に清掃に取り組んでいる。	272	3.94	0.82	.30
7	学習方法を工夫しながら計画的に学習に取り組んでいる。	274	3.52	0.95	.25
8	社会生活や交通のルール・マナーを守ることができている。	274	4.45	0.59	.28
9	人権を意識した、他者を気づかう言動が取れている。	273	4.30	0.65	.35
10	学校行事に積極的に取り組んでいる。	273	4.35	0.76	.37
11	部活動に積極的に取り組んでいる。(加入者のみ)	240	4.35	0.88	.28
12	自分の健康や安全に配慮した行動がとれている。	273	4.07	0.83	.39

		3年全体			
設問項目		人数	平均	標準偏差	対13相関
13	総合的に判断して、本校での学校生活に満足している。	258	4.08	0.84	1.00
4	目的意識を持って自主的に行動することができている。	257	4.13	0.71	.34
5	自分の将来や進路を考え、その実現に向けて行動できている。	258	4.21	0.82	.34
6	校内を美しく保つよう、積極的に清掃に取り組んでいる。	257	4.25	0.70	.27
7	学習方法を工夫しながら計画的に学習に取り組んでいる。	258	4.03	0.92	.34
8	社会生活や交通のルール・マナーを守ることができている。	258	4.46	0.69	.28
9	人権を意識した、他者を気づかう言動が取れている。	258	4.28	0.76	.37
10	学校行事に積極的に取り組んでいる。	258	4.25	0.85	.49
11	部活動に積極的に取り組んでいる。(加入者のみ)	192	4.38	0.88	.46
12	自分の健康や安全に配慮した行動がとれている。	256	4.23	0.77	.46

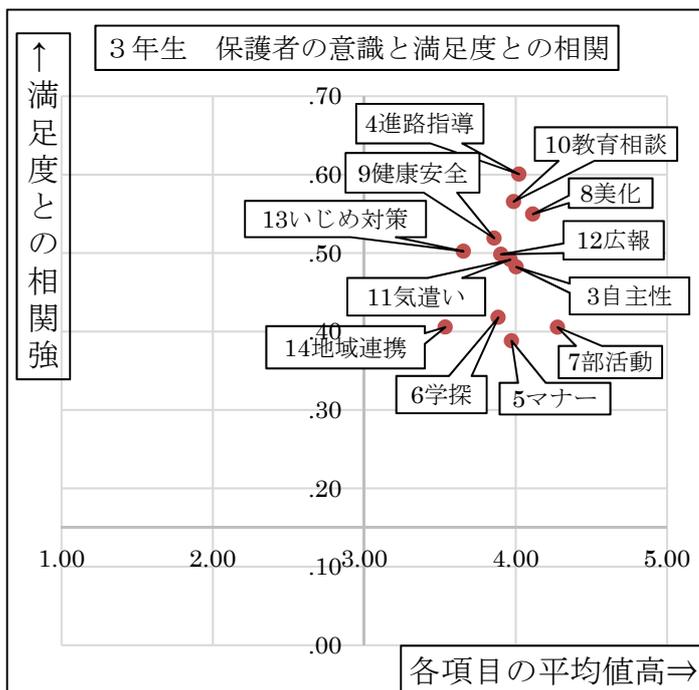
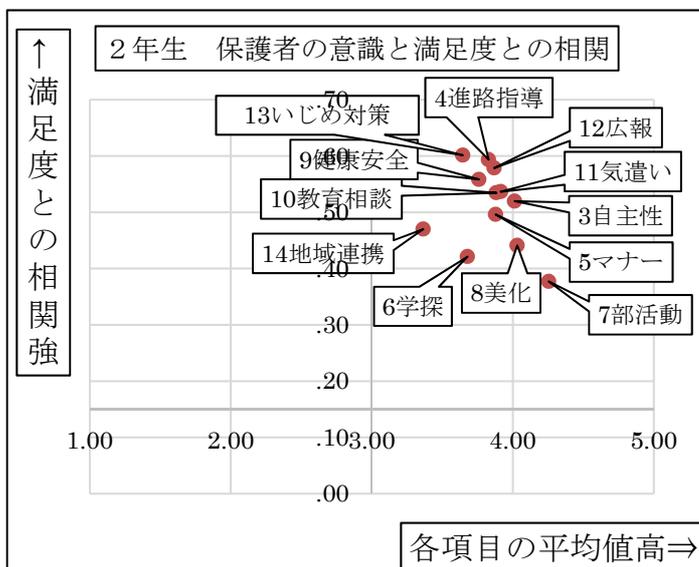
前ページの表の見方について

- ・横軸は各学年、各項目の平均値で、右の 5.0 が「おおいにあてはまる」、左の 1.0 が「全くあてはまらない」である。
- ・縦軸は「総合的に判断して、本校での学校生活に満足している」項目との相関が高いものが上に来ている。例えば、今年度3年生では「学校行事に積極的に取り組んでいる」「部活動に積極的に取り組んでいる」で「おおいにあてはまる」を選んでいる生徒の「学校生活満足」度が高く、「全くあてはまらない」を選んでいる生徒が「学校生活満足」度が低いという傾向にある。言いかえると「満足」度が「学校行事」に最もよく表れているとも言える。
- ・昨年度との比較については、同一学年での比較もできるが、昨年の1年生が2年生に、2年生が3年生になってどう変わったかという、昨年度からの変化として見ることも可能である。



表の見方

- ・教員と保護者が同じ項目でアンケートをとり、比較できるようにしている。
- ・横軸は各項目の平均値で、最も右の5.0が「おおいにあてはまる」、最も左の1.0が「全くあてはまらない」である。
- ・縦軸は「総合的に判断して、本校の教育活動（運営）に満足している」項目との相関が高いものが上に来ている。例えば、1年生保護者では「11 気遣い」に相関の高さがみられる。
- ・別の例でいうと、次ページの2年生保護者と3年生保護者では、どちらも「7 部活動」の平均値が最も高くなっている。しかし、「満足」度との相関をとると、2年生・3年生ともに低くなっている。つまり、2年生保護者の「満足」度は「部活動」よりも「13 いじめ対策」や「4 進路指導」などに表れ、3年生保護者の「満足」度は「4 進路指導」によく表れているということが言える。



※各項目とも「5」が「おおいにあてはまる」、「1」が「全くあてはまらない」

設問項目	教職員			
	人数	平均	標準偏差	対15相関
15 総合的に判断して、本校の教育活動(運営)に満足している。	46	3.83	0.74	1.00
3 学校行事を通じて生徒に自主性が育ってきている。	46	3.74	0.68	.44
4 生徒それぞれの進路目標に応じた進路指導が行われている。	46	4.07	0.71	.53
5 生徒に社会生活に必要な行動・マナーが身につけてきている。	46	3.28	0.78	.70
6 生徒は「学探」での発表や課題研究に積極的に取り組んでいる。	46	3.39	0.80	.34
7 部活動を通しての生徒の人的成長を感じる。	46	3.83	0.77	.49
8 環境美化活動が充分に行われ、校舎内など美しく保たれている。	46	3.54	0.78	.24
9 生徒の健康・安全を維持・向上させるための活動が行われている。	45	4.00	0.52	.52
10 学校は生徒や保護者からの教育相談にしっかりと対応している。	46	4.41	0.72	.52
11 生徒は、他者を気づかう言動がよりいっそうとれるようになった。	46	3.41	0.78	.71
12 学校新聞や広報誌、HP等により情報発信の充実に努めている。	46	4.07	0.61	.32
13 いじめの防止や、早期発見・対応のための取組が行われている。	46	4.07	0.61	.57
14 生徒は地域と連携した行事や清掃活動等に積極的に参加している。	46	3.52	0.94	.62

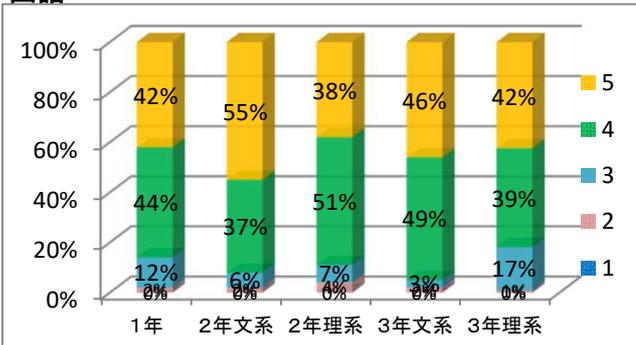
設問項目	1年生 保護者			
	人数	平均	標準偏差	対15相関
15 総合的に判断して、本校の教育活動(運営)に満足している。	240	4.17	0.60	1.00
3 学校行事を通じて生徒に自主性が育ってきている。	239	3.97	0.73	.37
4 生徒それぞれの進路目標に応じた進路指導が行われている。	237	3.86	0.68	.47
5 生徒に社会生活に必要な行動・マナーが身につけてきている。	237	3.88	0.67	.41
6 生徒は「学探」での発表や課題研究に積極的に取り組んでいる。	236	3.61	0.76	.42
7 部活動を通しての生徒の人的成長を感じる。(加入者のみ)	214	4.13	0.72	.29
8 環境美化活動が充分に行われ、校舎内など美しく保たれている。	239	4.13	0.71	.44
9 生徒の健康・安全を維持・向上させるための活動が行われている。	239	3.91	0.70	.53
10 学校は生徒や保護者からの教育相談にしっかりと対応している。	238	4.01	0.71	.57
11 生徒は、他者を気づかう言動がよりいっそうとれるようになった。	239	3.91	0.78	.59
12 学校新聞や広報誌、HP等により学校は情報発信の充実に努めている。	238	3.88	0.72	.44
13 いじめの防止や、早期発見・対応のための取組が行われている。	239	3.67	0.73	.55
14 生徒は地域と連携した行事や清掃活動等に積極的に参加している。	238	3.46	0.87	.45

設問項目	2年生 保護者			
	人数	平均	標準偏差	対15相関
15 総合的に判断して、本校の教育活動(運営)に満足している。	223	4.02	0.77	1.00
3 学校行事を通じて生徒に自主性が育ってきている。	222	4.01	0.68	.52
4 生徒それぞれの進路目標に応じた進路指導が行われている。	222	3.83	0.75	.59
5 生徒に社会生活に必要な行動・マナーが身につけてきている。	222	3.88	0.64	.50
6 生徒は「学探」での発表や課題研究に積極的に取り組んでいる。	218	3.68	0.78	.42
7 部活動を通しての生徒の人的成長を感じる。(加入者のみ)	204	4.25	0.75	.38
8 環境美化活動が充分に行われ、校舎内など美しく保たれている。	222	4.03	0.80	.44
9 生徒の健康・安全を維持・向上させるための活動が行われている。	221	3.76	0.73	.56
10 学校は生徒や保護者からの教育相談にしっかりと対応している。	223	3.88	0.74	.53
11 生徒は、他者を気づかう言動がよりいっそうとれるようになった。	223	3.91	0.73	.54
12 学校新聞や広報誌、HP等により学校は情報発信の充実に努めている。	221	3.87	0.71	.58
13 いじめの防止や、早期発見・対応のための取組が行われている。	220	3.65	0.72	.60
14 生徒は地域と連携した行事や清掃活動等に積極的に参加している。	222	3.36	0.95	.47

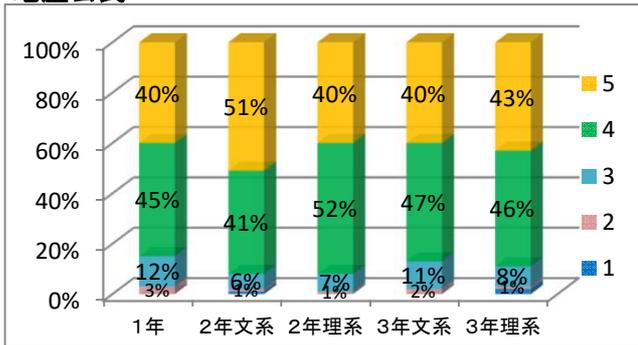
設問項目	3年生 保護者			
	人数	平均	標準偏差	対15相関
15 総合的に判断して、本校の教育活動(運営)に満足している。	229	4.05	0.75	1.00
3 学校行事を通じて生徒に自主性が育ってきている。	228	4.00	0.69	.48
4 生徒それぞれの進路目標に応じた進路指導が行われている。	229	4.02	0.79	.60
5 生徒に社会生活に必要な行動・マナーが身につけてきている。	227	3.97	0.75	.39
6 生徒は「学探」での発表や課題研究に積極的に取り組んでいる。	227	3.89	0.80	.42
7 部活動を通しての生徒の人的成長を感じる。(加入者のみ)	202	4.28	0.77	.41
8 環境美化活動が充分に行われ、校舎内など美しく保たれている。	228	4.11	0.67	.55
9 生徒の健康・安全を維持・向上させるための活動が行われている。	226	3.86	0.70	.52
10 学校は生徒や保護者からの教育相談にしっかりと対応している。	227	3.99	0.76	.57
11 生徒は、他者を気づかう言動がよりいっそうとれるようになった。	228	3.96	0.77	.49
12 学校新聞や広報誌、HP等により学校は情報発信の充実に努めている。	227	3.90	0.78	.50
13 いじめの防止や、早期発見・対応のための取組が行われている。	226	3.65	0.77	.50
14 生徒は地域と連携した行事や清掃活動等に積極的に参加している。	226	3.54	0.89	.41

質問1 私は、自主的に学ぶことができていた。

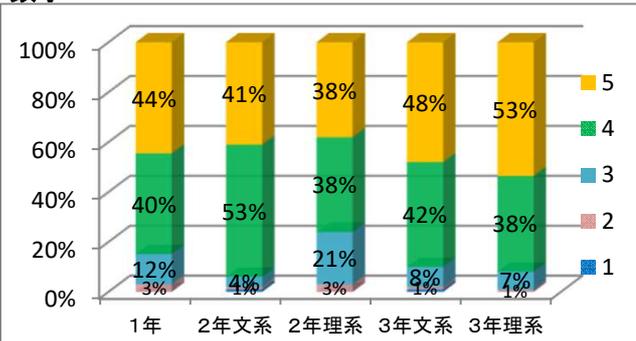
国語



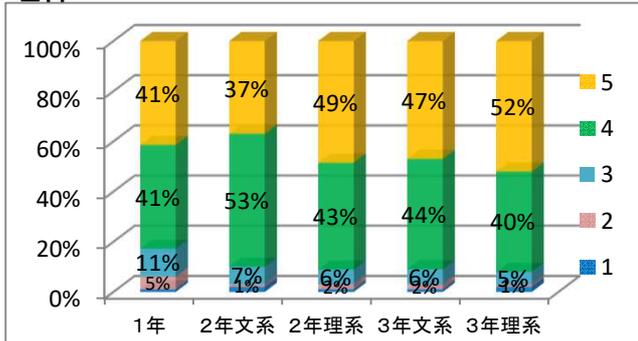
地歴公民



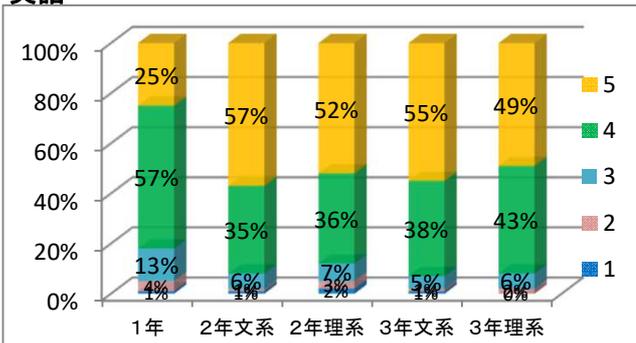
数学



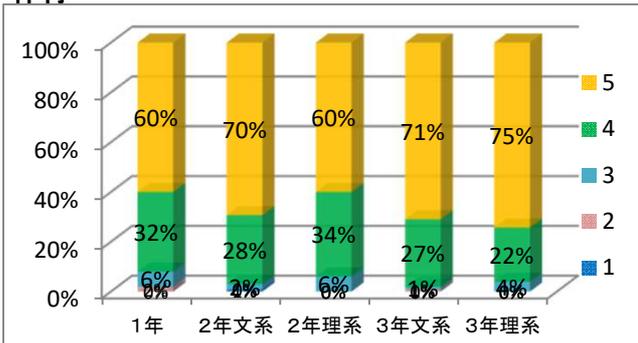
理科



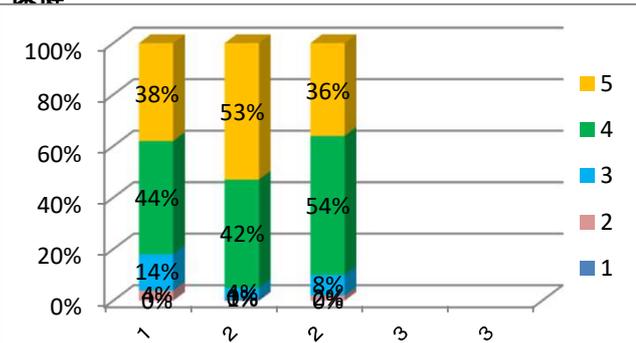
英語



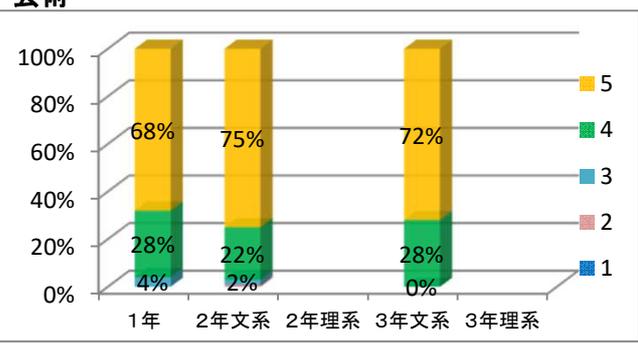
体育



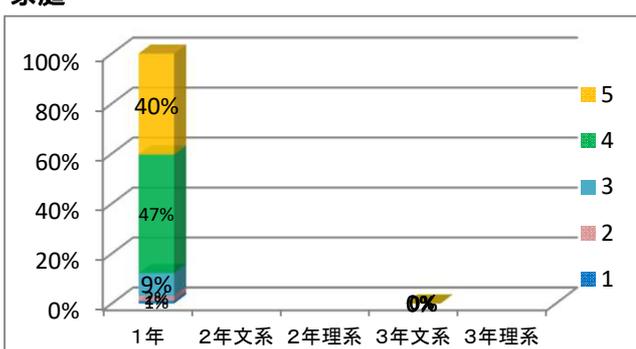
保健



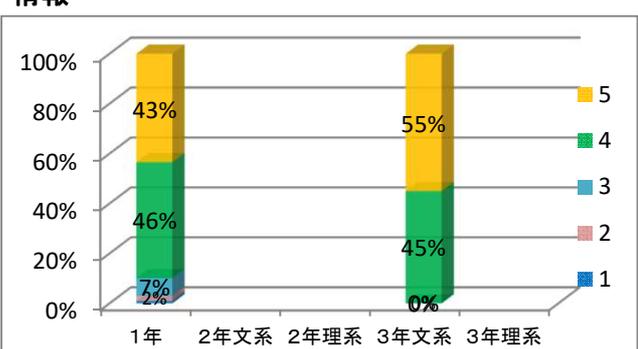
芸術



家庭



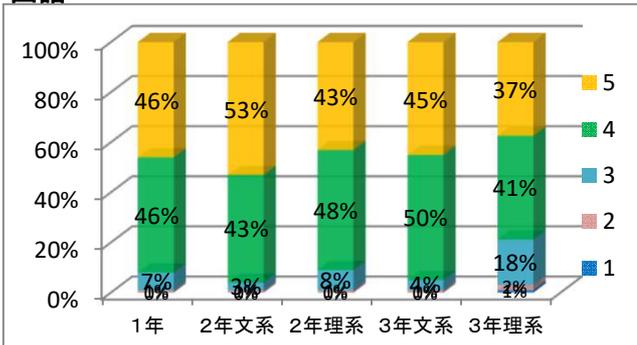
情報



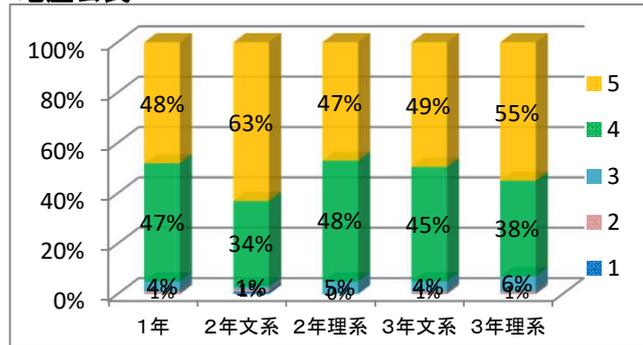
5: あてはまる, 4: いくらかあてはまる, 3: どちらでもない, 2: あまりあてはまらない, 1: あてはまらない

質問2 私は、当該科目の授業をきっかけにして、できる(わかる)ことが増えた。

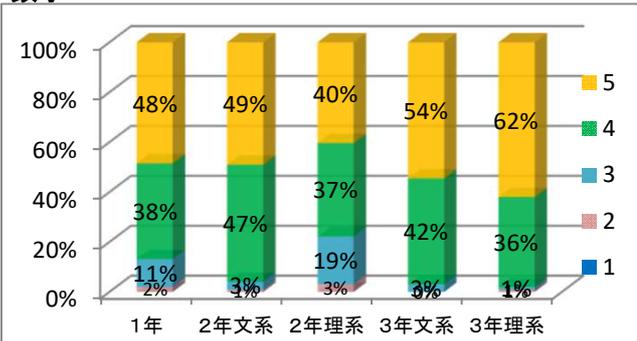
国語



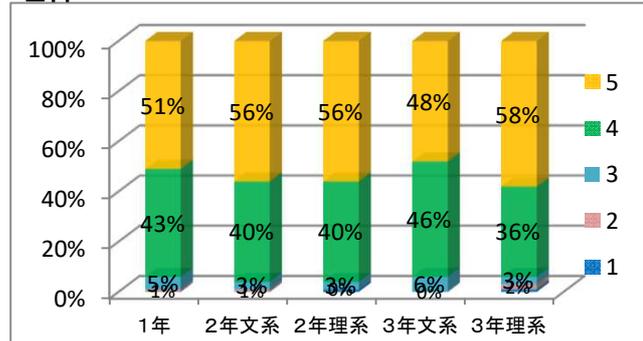
地歴公民



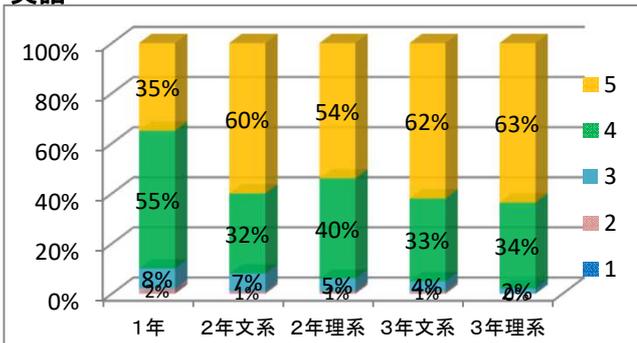
数学



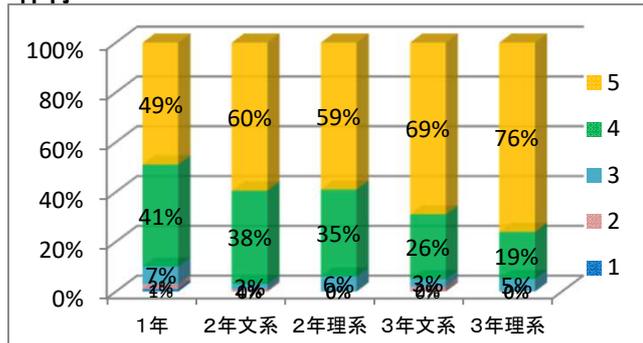
理科



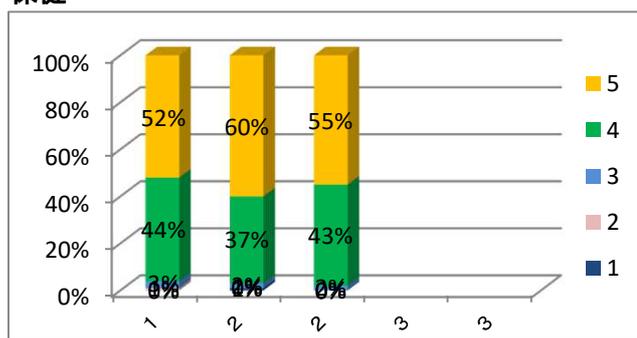
英語



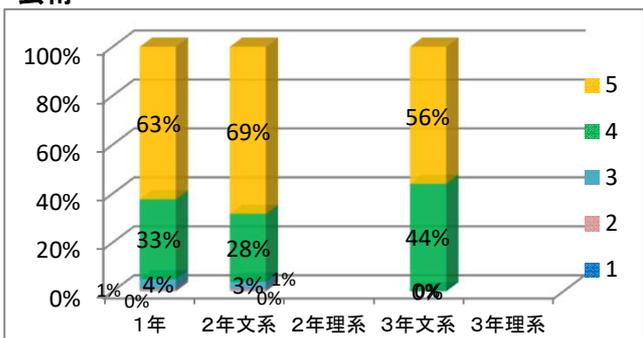
体育



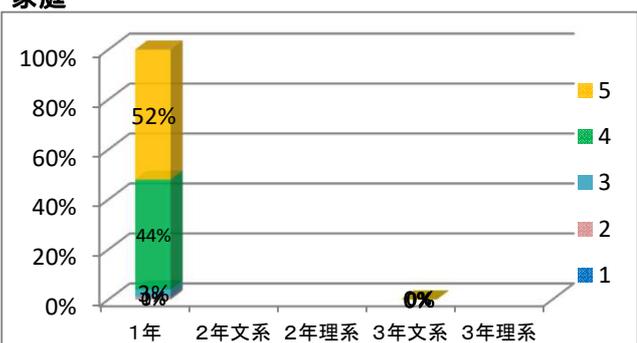
保健



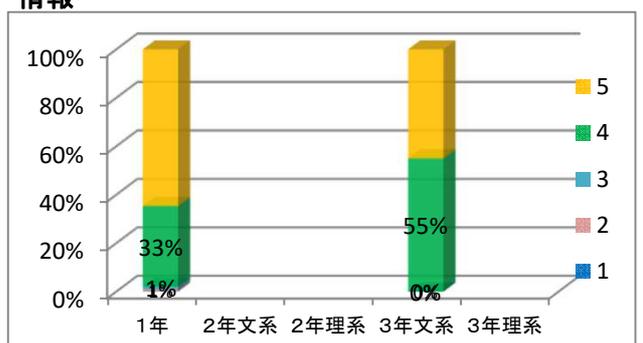
芸術



家庭



情報



5: あてはまる, 4: いくらかあてはまる, 3: どちらでもない, 2: あまりあてはまらない, 1: あてはまらない

1日 時 令和6年2月13日（火） 15:00～16:15

2会 場 高松桜井高等学校 校長室

3出席者 学校評議員 4名 PTA役員 2名

学校 6名（校長、教頭2、事務部長、教務主任、教育研究部長） 計12名

4内 容

(1) スクールポリシー、全国募集について

(2) 今年度の取組について

(3) 学校評価の結果について

・分掌等自己評価 ・アンケートによる評価（保護者、生徒、教職員） ・生徒授業評価

(4) 質疑応答（抜粋）

(委員) 学校評価の相關関係のグラフで清掃の相關が低いようだが、勉強や部活だけではなく、人としてのマナーなどにも関係してくる大事な項目だと思うが。

(学校) 先生方の反省点にも清掃ができていないという意見もある。特に最近トイレなどの掃除は、そもそもしたくないという生徒も少なからずいる。業者を入れている箇所もあるが、清掃の時間帯の再検討なども含め、自分たちの学校を自分たちできれいに使う生徒になってほしい。

(委員) 先日大学訪問に来た生徒たちには、大谷翔平選手が高校の時に作ったマンダラチャートの中に「ゴミ拾い」があることを話した。是非勉強以外でもきちんとできる学校であってほしい。

(委員) 文化祭が4年ぶりの完全公開で、1400人の入場者で活気があったと思う。書道部などすばらしい展示も多く、大多数の生徒が一生懸命取り組んでいたが、中に「やらされ感」が漂う生徒もおり、両極端であった。

(委員) 遅刻や、交通事故が昨年に比べて微増であると言うことだが。

(学校) 交通事故は1年生が通学の慣れていない1学期に、接触事故を起こすことが多く、微増になっている。遅刻は、残念ながら微増ではなく激増となっている。特に特定の生徒で、指導をしても遅刻が減らない生徒が多かった。

(委員) レンボ通りで、生徒や一般人の逆走や並進を見かける。また送迎の保護者の車両が、病院前の信号の所で駐車場を斜めに、かなりのスピードを出して危険な走行をしているので注意を続けてほしい。ヘルメットを着用する生徒は相変わらず少ないようだが、「努力義務」なので学校に任すだけでなく、家庭でも訴え続けようと思う。

(委員) 今年は大学でも1、2年生の遅刻や欠席が多いのだが、何か特徴的な理由はあるか？

(委員) 中学校でも起立性障害を理由に、遅刻や欠席が増えているような気がする。

(学校) コロナの時は、「体調が悪い者は学校に来ないように」と指導していたので、学校を休むことに対するハードルが下がっているのではないかと考えている。

(委員) 授業公開週間に参観したが、どの生徒も真面目にノートを取り、一生懸命学ぼうとする姿勢がすばらしかった。ある授業で先生が板書で資料の提示をしていたが、タブレットなども使用して、資料などの「見える化」をすればもっと効率のよい授業になると思う。小学校ではタブレットを「文房具のように使う」ことを奨励しており、毎日持って帰らせているが、高校ではどのように使用しているか。

(学校) 本校では2、3年は一人一台ずつ端末を貸与して、持って帰らせているが、1年生は共用端末として、必要な授業の時に持って行って使用している。来年度も同じ状況だが、学習アプリであるベネッセのClassiを採用することにしたので、学習の際や、欠席連絡などで活用したい。

(委員) 観点別評価について、「いつごろから」「どのように」おこなっているのか。

(学校) 2年前からで、来年度全生徒対象になる。主にはテストによる評価で、採点ナビなどを使って負担が少なくなるようにしている。教科によって各観点の割合は違う。授業中の活動や、提出物なども各教科で観点別評価に反映させている。

(委員) スクールポリシーにもあるユネスコスクールの取組は、桜井高校独自のものだと思うが、どのようなものなのか。

(学校) 環境学習の取組を基に平成24年に県内初のユネスコスクール認定を受け、平成28年度からはフェアトレードの普及啓発に取り組み、令和元年9月にかがわエシカル消費シンポジウムで発表を行った。現在、ESDやSDGsと関連づけながら組織的に取り組むとともに、エコ活動のほか、理学部が中心となり、太田中央公園せせらぎ水路の清掃を通じて水生生物の保全活動を行っている。また、文化祭などで国際協力ボランティア団体と協力して展示を行っている。今後は国内外のユネスコスクールと交流を図るなど、活動を充実させていきたいと考えている。

以上